日本のヤングケアラーが抱える課題とその解決策

世界中に、権利を侵害されている子どもが多く存在する。最も深刻であるのはサハラ以南のアフリカ地域であり、特に農村部において労働を強いられている子どもが多い。日本では、ヤングケアラーとして、大人に代わり家族のケアを日常的に行っている子どもがいる。彼らはなぜケアを担わなければならないのか、またどのようなケアを担っているのか。そして社会はどのような支援を行っていくべきか。

ヤングケアラーの発生要因は一義的ではない。その 1 つに子どもの貧困がある。経済的に福祉サービスを利用することが困難である家庭がある。それだけではなく、サービスの仕組みが複雑で分かりにくい、ケアに時間を取られ外部に助けを求める余裕がないという子どももいる。

ヤングケアラーが行っているケアはさまざまである。身体障害や精神疾患の親を持つ子どもは、身辺ケアなどを行っている。聴覚障害の親を持つ子どもは、親に付き添い通訳を行っている。これは、子どもの教育を受ける時間を奪い、ライフコースの選択を制限するなどというような悪影響を及ぼす。

ヤングケアラーが子どもらしく生活できるようにするために、社会が支援するべきである。例えば、気軽に相談できる環境を整備することにより、ヤングケアラーが社会から孤立することを防ぐ。ヤングケアラーへの直接的な働きかけが支援だけではないと考えられる。社会全体のヤングケアラーの認知度が低いために、子どもからの SOS に気付きにくいという問題がある。1 人ひとりがヤングケアラーについて学ぶこと、また障害について理解を深め障害者を受け入れる社会を作ることが、ヤングケアラーへの支援となる。